

1 月校長の想い

専門の力

新年あけましておめでとうございます。

本年も神津高等学校ともどもよろしくお願いいたします。

さて、私は今年の3月で教職生活37年になります。

まだ若かりし20代のことを想いだすことが多くなりました。

初めての担任をした学年3年生になって、大学の推薦を受けるある女子生徒がいました。

推薦と言っても教科の試験もあり、国語対策に取り組んでいました。

その生徒が国語の教員に指導を仰ぐと、天声人語の要約の課題が出されたので、課題をこなして提出した時のことです。

「この要約は、新聞のこの部分とこの部分をただ抜き出して書いたものですね。」

とその先生は、ずばりと指摘しました。「新聞の要約は、このようにやるのだよ。」

と先生の指導が入り、その教員の国語の力にすっかり目から鱗が落ちたような顔をしていました。その生徒は、その先生に対して益々尊敬の念が深まる中で、その教えに着いて行くことで、見事合格した生徒がいたことを思い出しました。

その先生は、その後、私にも「国語でよく15字で答えよとか、字数を指定される問題がありますが、この言葉は必要、これも必要と集めて文にするとちょうど指定された文字数になるのですよ。」と教えてくれました。

私も学生時代にこの先生に教われば、きっと国語の成績も良かったのではないかなあと感じさせるような切れ味でした。

教師に限らずその道の専門家による「専門の力」というものは、きれいな絵を鑑賞した時と同じようなときめきがあるものです。

自分も「専門の力を」つけたいなあと思った初任の頃の思い出でした。